

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	司法研究科
大項目	10 国際関係
中項目	
小項目	10.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	10.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 隔年で、交流協定校、その他海外教育研究機関等から最低1人の教員（客員教員A）を受け入れ、授業担当をしてもらう。	→国際交流協定校、その他海外教育研究機関等からの教員の派遣（客員教員A）受入れ数。	D
2. 隔年で、本研究科教員を最低1人を交流協定校、その他海外教育研究機関等へ派遣する。	→国際交流協定校、その他海外教育研究機関等への本学教員の派遣数。	B
3. 毎年、国際交流に関する講演会、交流会を実施する。	→国際交流に関する講演会と交流会の実施回数。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

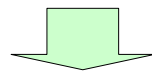
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 10.0.1	(方針) 国際交流の重要性ならびに必要性に基づき学生の国際性の涵養に役立つ機会や環境を充実させ、外国と日本の架け橋としてグローバルに活躍できる法曹を養成すること。 (現状説明) 国際的科目履修の機会を確保しているほか、海外ロースクールに留学できる制度を設けている。現在の実績は1名だが、これらの環境や機会を生かす学生の輩出のためさらなる改善を進めている。
☆	小項目 10.0.2	(現状説明) 昨年は1名の教員がニュージーランドのオークランドへ派遣された。現在、2名の教員についてそれぞれ、ドイツのマックス・プランク研究所、およびハワイ大学ロースクールへの派遣が予定されている。
☆	その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目 10.0.1	
	小項目 10.0.2	
	その他	



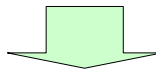
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目 10.0.1	
	小項目 10.0.2	
	その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目 10.0.1	
	小項目 10.0.2	
	その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目 10.0.1	
	小項目 10.0.2	
	その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	教員のみならず、ロースクール在学生の海外交換留学派遣を行いたい。
---	---------------	----------------------------------

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 海外からの教員の受け入れ、国際交流に関する行事の実行は重要です。さまざまな計画が策定されており、その効果が期待されます。
- 司法試験の受験を控えているロースクールにおいて国際交流を進めることは困難なことです。国際性を謳っている関学ロースクールにおいて、より良き制度とされることを期待します。
- 掲げられた目標は「教員の受入、派遣」ですが、学生の海外交換留学が実現しなければ標榜している国際性の本来の意味がないのではないのでしょうか。今後の努力に期待します。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし